

青谷上寺地遺跡で古代米の稲刈り

～青谷小学校児童と青谷高校生徒が体験～



10月6日(火)、さわやかな秋晴れの中、国史跡青谷上寺地遺跡内にある体験水田で、青谷小学校5年生38人と青谷高校2年次生、3年次生のうち23人が、たわわに実った古代米の稲刈りを体験しました。これは、6月に児童生徒が自分たちで田植えした、朝紫と緑米の苗が成長し、収穫するものです。

子どもたちは、麻で編んだ弥生人の服“貫頭衣”^{かんとうい}を着て、はじめに青谷上寺地遺跡史跡保存活用協議会のメンバーから稲刈りの仕方について話を聞いた後、さっそく田んぼに入りました。小学生は、稲株をつかみ、手前に鎌を引きながら、次々と刈っていきました。高校生は、刈った稲を束ねて、順に稲ハゼにかけていきました。

一方、石包丁を使い穂先のみを摘み取る弥生時代の収穫方法“穂摘み”も、体験しました。片手で握るように石包丁を持ち、刃先を穂先の下に当てて摘み取るもので、子どもたちは、力を入れることなく次々と収穫していきました。

参加した小学生の代表は、「弥生時代の人とつながったような気持ちが出て、うれしかったです」と思いを話していました。

刈った稲は、天日干しした後、脱穀し、学校給食や炊飯体験などで使用することです。